

出題分析		
試験時間 60分	配点 100点	大問数 4 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>昨年に引き続き、40字の小論述2問を含む計42問であった。昨年は歴史総合範囲からの小論述が課されるなど日本史寄りの知識が求められたが、今年はほぼ全問世界史の内容となり取り組みやすかった。さらに、前日に実施された慶大商学部の出題内容と重複が多く、事前に解いていればかなり有利になったと思われる。文学部では例年文化史の比重が大きかったが、2024年以降は出題量が少なくなっている。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	動力の歴史	Dの「アークライト」は他の発明者との混同に注意したい。前日の商学部大問Ⅲで類題の出題があった。設問(1)「ゴッホ」は答えを確定しづらい。「タンギー爺さん」を知らない受験生が多かっただろう。「オランダ生まれ」がヒントになる。設問(ア)について、ワグナー法の内容説明は易しいが、その「影響」となると少し書きづらく感じたかもしれない。ワグナー法によって労働運動が活性化したと考え、同時期に設立された労働者組織を想起したい。	標準
II	モンゴルとその後継諸国家	Bは文学部で定番の年代を書く問題。年代の対策をしていれば比較的易しい。設問(3)「メフメト2世」は問題文の内容が細かく、年代から推測する以外に答えを絞り込みづらい。Cの「カーブル」は2つ目の空欄から考える方がわかりやすいだろう。設問(4)(5)はやや難しい。設問(ア)の論述は基本的な内容。設問要求は「どのように組織化する制度であるか」説明することなので、「組織化」以外の要素(給与が土地の徴税権であるジャーギールとして与えられたことなど)には触れなくてよい。	標準

設問別講評			
III	女性史	C「オランプ＝ド＝グージュ」とH「ローザ＝ルクセンブルク」は前日の商学部大問Ⅱでも問われた。G「マルヌ」は同じ西部戦線の戦地であるヴェルダンやソンムとの混同に注意。「戦線が膠着」がヒントになる。J「平塚らいてう」は今年唯一の歴史総合範囲からの出題だが、どちらかと言えば一般常識の範疇だろう。なお、同時代に反戦や女性解放を論じた与謝野晶子は女性のあり方をめぐって平塚と論争し、新婦人協会とは対立した。	やや易
IV	中国儒学史	A～Cは漢字の勝負。G「白居易」は特定できる要素が少なく難しい。「安史の乱以後の混乱期に平易な形式で詩作した」という情報から、王維・李白・杜甫ら盛唐の詩人は除外できるが、古文復興運動を行った韓愈や柳宗元の可能性を捨てきれない。なお、『枕草子』のエピソードは『白氏文集』を踏まえている。	標準

合格のための学習法

文学部は記述式の問題が大半を占めるので、用語は正確に書けるようにしたい。特に漢字には注意しよう。空欄補充問題では用語を入れづらいこともあるため、教科書や用語集をよく読み、周辺知識を蓄えておこう。空欄が複数箇所ある場合は、1箇所だけを見てわからないと判断せず、他の箇所も見て総合的に判断したい。地名が問われることも多いのでおろそかにしないこと。例年、年代を答えさせる問題も出題されるため、重要な年代は覚えておきたい。過去問を多く解いて、空欄補充形式に慣れておくことも有用である。短答記述対策を学習の核としつつ、商学部や経済学部の短い論述問題にも触れておくとういだろう。